

兵庫のノリ生産 過去最高



量 26年ぶり更新 額 昨季1.7倍

兵庫県は9日、今季（2024年12月～25年5月）の県産養殖ノリが生産量、額ともに過去最高を更新したと発表した。海中の栄養や水温、日射量など生育環境が良好に推移し、生産量は1998年度以来、26年ぶりの高水準。全国的な供給不足で

生産量が増えた理由

--	--	--

～

--	--	--

したから

額が増えた理由

--	--	--

～

--	--	--

したから

2 空欄に入る年度を、グラフから読み取り、数字を入れましょう。

--

3 傍線部②は、なぜでしょう。5字から10字で答えましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

単価が高騰し、生産額は過去最高だった昨季の1・7倍になった。量、額とも3年連続で全国トップを維持した。

県漁業協同組合連合会のり流通センター（兵庫県播磨町）で同日、今季最後のノリの入札会が開かれ、7299万枚が落札。今季の生産（落札）量は昨季比1・5倍の計18億9772万枚に上り、これまで最多だった年度を約3700万枚上回った。生産額は434億円で、1枚当たりの平均単価は22・8円と過去最高だった昨季よりも1・7円上昇した。

県漁連によると、昨秋は水温が高く、網の張り込みが遅れたが、植物プランクトンの大量発生がなく、ノリに栄養が行き渡った。冬には水温が下がり、晴天にも恵まれ、芽がどんどん出てきたことで、頻繁に刈り取り作業を行ったという。

シーズン終盤も黒くならない「色落ち」が起きず、収穫を続けられたことも生産量を押上げた。例年3月までに作業を終える坊勢漁協（姫路市）は今季、4月まで続けた。

全国の生産量は01年度の105億枚をピークに減少傾向。有力産地の佐賀県の生産が振るわなかった22、23年度はそれぞれ48億枚、49億枚まで落ち込んだ。供給不足から、この40年間に8・13円台で推移してきた平均単価は、22年度に17円、23年度には21円まで上昇。高騰は24年度も続き、9日の入札会に参加した加工業者からは、消費者のノリ離れを懸念する声も聞かれた。

県漁連の田沼政会長（71）は「沿岸の」下水施設から栄養を流したり、海底を耕したりする取り組みの効果が始まった。採算が厳しい時期が長く続いたので少し救われた面もあるが、資材が高騰しており、心配は尽きない」と話した。（長尾亮太）

NIEワークシートのこたえ（2025年5月13日公開）

◆ワークシート「兵庫のノリ生産過去最高(社会)」 2025.5.10付 朝刊 1面 解答

- 1 海中の ～ に推移 したから
全国的 ～ が高騰 したから
- 2 98 (1998)
- 3 価格の高騰 (価格が上がったから など同意可)